

令和5年11月9日
国土政策局地方振興課

あつさぶちよう さんじょうし とくしまし
厚沢部町・三条市・徳島市の地域づくり3団体が
「国土交通大臣賞」を受賞

～ 「新時代に地域力をつなぐ国土」を体現する8団体を
令和5年度「地域づくり表彰」受賞団体に決定 ～

国土交通省は、関係団体との共催・後援で、創意・工夫ある「地域づくり」活動の優良事例を表彰する「地域づくり表彰」を、昭和59(1984)年以来、実施してきました。

今年度は、子育て支援やこどもの声に耳を傾けた取組、SNSやクラウドファンディングなどデジタルも活用し民の力を最大限に活かした取組、若者・高齢者等の多様な主体が参加した取組、有形無形の資源を積極活用した取組等の優良な8事例について、「国土交通大臣賞」等で表彰することと致しました。

いずれも、それぞれの課題解決を契機に、地域の持続可能性の拡大に繋げている取組です。

これらは、国土づくりの目標として、「新時代に地域力をつなぐ国土」を掲げ、本年7月に閣議決定された、「第三次国土形成計画(全国計画)」(以下、「国土形成計画」という。)にも呼応するもので、「持続可能な生活圏の再構築」や、「地域を支える人材の確保・育成」といった重要施策に対応する先進的取組と言えます。

各受賞団体には、受賞を契機に更なる活発な活動の展開を、また、全国各地の皆様には、各事例をご参照いただき、地域の課題の克服や魅力の向上に向けた取組を発展させていただければと期待しております。


- 主催：国土交通省、全国地域づくり推進協議会*、一般財団法人 国土計画協会
後援：株式会社 日本政策投資銀行
- 本表彰制度は、昭和59(1984)年に始まり、今年で40回目
- 今年度は、全国各地から41団体が推薦され(昨年度 32団体)、うち8団体(昨年度8団体)を表彰
- 各受賞団体の「活動概要・選定理由等」は別添資料1、「審査後の講評」は、別添資料2、「委員名簿」は別添資料3、「国土形成計画の概要」については、別添資料4を参照
- 各団体の取組の詳細や表彰の様子等は、国土交通省サイト及び特設サイト(※)で紹介
(※)「地域づくり表彰」特設サイト(一般財団法人 国土計画協会) <https://www.chiikizukuri.kok.or.jp/>

| 表彰名 | 受賞団体名または活動名(所在地) (全国地方公共団体コード順) |
|---------------------|------------------------------------|
| 国土交通大臣賞 | 保育園留学推進協議会(北海道厚沢部町) |
| | 株式会社 TREE(新潟県三条市) |
| | 特定非営利活動法人 アクア・チッタ(徳島県徳島市) |
| 全国地域づくり推進協議会 会長賞 | おしゃれ田舎プロジェクト(長野県小諸市) |
| | 神明大杉再生検討会議(岐阜県瑞浪市) |
| 国土計画協会会長賞 | 倭文西まちづくり協議会(岡山県美咲町) |
| 日本政策投資銀行賞 | 行田市 及び 一般社団法人 行田おもてなし観光局 |
| | 「行田花手水week 及び 希望の光」(埼玉県行田市) |
| 地域づくり表彰査会 特別賞 | 「竹・福・商」連携による大崎町「竹の資源化」モデル(鹿児島県大崎町) |

*:「全国地域づくり推進協議会」は、地域づくり活動の発展・拡大に資することを目的とした地方公共団体からなる協議会

○ 表彰式の日時・場所等については、各自治体(別添資料参照)にお問合せください

「地域づくり表彰」の詳細、過去の事例については

地域づくり表彰  で検索

問合せ先:

国土政策局 地方振興課 渡部、馬場
電話: 03-5253-8111 (内線29-535、29-584)
直通: 03-5253-8403

国土交通大臣賞 (総合的に最も優れた取組) (全国地方公共団体コード順)

あさぶちょう 保育園留学推進協議会 (北海道厚沢部町)

--- 認定こども園の一時預かり事業と、移住体験住宅による
ワーケーション等を1つのメニューに ---

国土形成計画の重点テーマ

「地域を支える人材の確保・育成」
こどもまんなかまちづくり等の
こども・子育て支援

●活動概要● 町が有する3つのリソースを、1つのパッケージとして提供

- ①認定こども園でのこどもの「一時あずかり事業」…余剰定員枠を活用
- ②移住体験住宅における「ワーケーション」…空き家等を活用
- ③ジャガイモやアスパラの収穫体験など地元の暮らし体験プログラムの3つを「保育園留学」という形で分かりやすく1つにパッケージ化。

これらを推進するため、認定こども園、地元の地域づくり団体、商工会、観光協会、農協の地域団体等が連携して協議会を形成、相談のワンストップ窓口を設置し、他地域への移転・展開も。

- ▶「住んでみたい・住んで良かった・住み続けたい」を実現するプロジェクト
- ▶問合せは初年度で1400件以上、留学確定数150件、キャンセル待ちも続く
- ▶体験家族の満足度が非常に高い(リピート希望率は97%)
- ▶体験家族の地元消費額を算出すると、年間3,000万円程度の経済効果も
- ▶スマホで出来る「ふるさと納税」である「旅先納税」を活用する家族も



こどもたちを受け入れる認定こども園「はぜる」



こども園菜園でのこどもたちの収穫体験

●選定理由● 「こどもをここに預けてほしい」という地域の情熱と総合力が組み合わさった好事例

こどもに「地方で、都会ではできない貴重な経験や学びをさせたい」というニーズは高まってきている。また社会もIT環境の発展やコロナの経験を経て、地方でのテレワークやワーケーションという働き方が受容されてきているなかで、では、こどもをどうするかという課題に確実に応えてくれるモデルと言える。関係人口・交流人口からお試し居住を経て今後の移住・定住へ移行する道筋の一部ともいえ、若い子育て世代のテレワーカーから選ばれる地域になりうると思われる。細やかな創意工夫も併せ評価できる。

■問合せ先■ 厚沢部町 政策推進課 ☎ 0139-64-3312 (課直通)

国土交通大臣賞 (総合的に最も優れた取組) (全国地方公共団体コード順)

ツリー 株式会社 TREE (新潟県三条市)

--- 若者が地域の過去の取り組みに敬意を持ちながら、
新しい風を吹き込んでいる事例 ---

国土形成計画の重点テーマ

「持続可能な産業への構造転換」
地域産業の稼ぐ力の向上

「地域を支える人材の確保・育成」
若者が希望を持って
暮らし、働ける地域づくり

●活動概要● 地元出身の若者の「やってみたい!!」をカタチに

若者に「なぜこの地域を去ってしまうのだろう?」と聞き取りしたところ、「街に行きたいところがない」「地域で楽しく生きるモデルが見られない」「挑戦できる場がない」といった意見。このため、若者をターゲットに、これまでの地元商店街には無かった魅力的な商品の開発や飲食店の展開、積極的なSNSでの情報発信、創業・起業の伴走支援を行い、地域の未来を創る若者にチャレンジの場を提供。その結果、若者を含む幅広い層の来街者と商店街の新規出店も増加した。

- ▶「腹が減ったら食べたい」「インスタ映えするお店が欲しい」という声を踏まえ、若い人たちをどんどんまちなかに集めるスキームとして、真っ先に飲食店を立上げ
- ▶若い人が来るようになったからと、元々からあった店舗も若者向けの商品開発に着手。新旧の商店が一丸となり、ますます若い人が集まりやすい雰囲気
- ▶若手の発案で「アニメの聖地」としての売り込みも実現
- ▶街が活性化し「TREE」以外の新たな若者グループも立ち上がってきている



TREE店内で開業した古着屋



若者にぎわうーノ木戸商店街

●選定理由● 若者の「やりたい」と地域との丁寧な関係性作りの両立は、大いに他地域の参考になる

若者の「やりたい」の押しつけで無く、地元空き店舗オーナーや地元シニアの店主等との積極的なコミュニケーションや連携を重視し、そこから新たな商品やプロジェクトが生まれ、若者の次のチャレンジの場を創出し続けていることは、これから地域で起業を考える人たちに足元の大事さを考えてもらう意味で大いに参考になる。また、街づくり活動の内容を、市内の小中高校生へ知ってもらう機会を作り、こどもたちの地元への誇りの醸成にも貢献している点は、次の世代の地域の担い手づくりという観点でも高く評価できる。また、途中厳しい状況があっても逆境をばねに新しい取り組みに挑戦してこうとする態度にも注目したい。

■問合せ先■ 三条市 市民部 地域経営課 ☎ 0256-34-5628 (課直通)

国土交通大臣賞

(総合的に最も優れた取組) (全国地方公共団体コード順)

特定非営利活動法人 アクア・チッタ (徳島県徳島市)

--- 従来うち捨てられていた空き倉庫を「可能性のある資源」と捉え、立地を活かし魅力あるイベントの開催等で、活気のある賑やかな町に---

国土形成計画の重点テーマ

「持続可能な産業への構造転換」
地域産業の稼ぐ力の向上
「人口減少下の国土利用・管理」
空き倉庫等を活用した地域活性化

●活動概要● **遊休倉庫等を、店舗や事務所に転換し、地域のにぎわいを創出**
「アクア・チッタ」(イタリア語で「水の街」の意味)は、徳島市内中心部にある古い遊休物件となっていた倉庫街「万代中央ふ頭」に、衣食住を備えた「街」をつくることを目的に、この地に魅力を感じた徳島の中小企業オーナーたちが中心となり2005年に設立した団体。

遊休倉庫などの港湾施設を、飲食店やアパレル、雑貨、家具などの小売店、事務所などへリニューアルすることで、地域のにぎわいを創出。

埠頭という開かれた立地を活かして、各イベント会場として倉庫や岸壁を提供したり、冬季には高さ約6mの巨大クリスマスツリーを設置しているほか、最寄りの川を運行している水上交通との連携によるイベントを実施。

- ▶各種イベント開催の結果、19棟ある倉庫のうち、13棟に33事業者が入居
- ▶イベント「アクア・チッタ フェスタ」で1万7千人を集客
- ▶大学や建築士会、他のNPOの協力を得て街の「ビジョンづくり」にも着手



倉庫や岸壁を会場にしたイベント



遊休倉庫をリノベして商業施設に転用

●選定理由● **従来無価値と思われていた資源から無形の「新しい価値」を引き出し、イベントや展示会誘致で、事業者や観光客等を集め、賑わい空間に転換させた**

まちの中心にある、もったいない場所を発見し、その活用を「民」の側から考え続け、一步一步、魅力的な場所に転換していった、その忍耐力と粘り強さが素晴らしい。海外でも倉庫街や工場地帯が魅力的な場所に転換していく事例があるが、日本でもそれが、しかも民間主導で可能なことを示した好事例。港や空き倉庫に限らず、全国各地では、使われないまま放置されている「資源」が身近にたくさんあり、それらがこのような素敵な場所に生まれ変われることを実証した事例として、広く紹介したい。

■問合せ先■ 徳島市 市民協働課 ☎ 088-621-5510 (課直通)

全国地域づくり推進協議会会長賞

(地域活性化の観点で優れた取組) (全国地方公共団体コード順)

おしゃれ田舎プロジェクト (長野県小諸市)

--- 物件の仲介だけでなく、人の関係づくりまでも含む起業者支援 ---

国土形成計画の重点テーマ

「持続可能な産業への構造転換」
地域産業の稼ぐ力の向上
「人口減少下の国土利用・管理」
空き店舗を活用した地域活性化

●活動概要● **まちづくりの主体を「人」に置き、顔の見える起業者支援を展開**

新しい新幹線の駅が隣町にでき、官公庁や企業の支店・営業所は統廃合、大型店舗のほとんどが隣町に移転したことにより、町なかが寂しくなっていた。これに危機感を持ち、コロナ禍での移住ブームのなかで「選んでもらえる町」、また、住んでいる人だけでなく、訪れる人にとっても楽しめる町にするため、**町なかを楽しく元気にしたいという思いから立ち上げたプロジェクト。**

空き店舗解消に向け、起業者支援等を展開して、特徴のある店舗を増やす。

- ▶コアメンバーが空き物件を一軒一軒歩いて回り家主と顔見知りになった上で情報収集
- ▶市内で起業したい方向けに東京でセミナー開催、空き店舗情報を紹介
- ▶他所からの起業者の「人となり」を、地元の皆さんに知ってもらう取組を展開
- ▶「のきさき」プロジェクト=既存のお店の時間外や定休日にお試しで店舗を貸り開業のハードルを下げる。これにより「どんな町か?」「客層は?」などを掴んでもらう



「人が繋がる」イベントの実施



東京で起業セミナー開催

●選定理由● **空き店舗の大家の方々等との信頼関係を大切に、物件のみならず人と人とを結びつける支援を評価**

古い商店街では持ち主が売ったり貸したりすることをためらって、シャッター街から抜け出せないケースが多い中で、活動の中心になっている方々が、大家さんとの顔の見える関係で信頼を得て、新しい挑戦を受け入れる土壌を作り成功した事例。物件の斡旋紹介に留まらず、開業のPRや人の関係づくりまで細やかに支援している点を評価。全国各地に自分のこだわりの店を持ちたいという夢を持つ人は多いので、地元との摩擦無しに、そうした夢を叶える場を提供するスキームとして、また、シャッター街解消の好事例として紹介したい。

■問合せ先■ 小諸市 総務部 企画課 ☎ 0267-22-1700 (内線) 2351

全国地域づくり推進協議会会長賞

(地域活性化の観点で優れた取組)

(全国地方公共団体コード順)

しんめい おおすぎ

みずなみし

神明大杉再生検討会議 (岐阜県瑞浪市)

--- 若手とシニア、移住者も含めた検討会議で、
内外の多くの人を巻き込んだ展開に ---

国土形成計画の重点テーマ

「持続可能な産業への構造転換」
地域産業の稼ぐ力の向上
「地域を支える人材の確保・育成」
関係人口を含め多様な主体の参加と連携

- 活動概要● **町のピンチをシニアと若手と移住者などの総掛かりの知恵出しで実行**
約100世帯の地区の象徴でもあった樹齢670年のご神木が腐朽と雨の影響で倒伏。
大杉をただ撤去するだけでなく町民の心の拠り所の象徴としてどのように残すか、
この大きなピンチは地区の役員だけでは乗り越えれないと、若手や移住者も加えた
「神明大杉再生検討会議」を立上げた結果、様々な世代の意見や若手の大胆な手法を
取り入れることができ、無数の工夫や数多くの展開が可能となり、今や大杉倒伏は地
域づくりのスタート点となって、新たな展開が今も広がっている。
- ▶町内外からも意見を集めるため、意見募集のサイトを倒伏翌日に立上げ
- ▶フェイスブック等のSNSで、検討会議の様子を定期的・積極的に情報発信
それにより、資金は地域内外の理解を得て、クラウドファンディングなどで確保
- ▶その資金ノウハウを活かし、古民家をお試し宿泊施設や料理屋にする事業も実現
- ▶倒伏した杉を「資源」と捉え、ビール・バイオリン・太鼓を作り、音と食で町の歴史
を体験するイベントを開催、町の人口を超える1,000人も人が集まった



倒伏した大杉を町の新たなシンボルに



倒伏した大杉で作った楽器で演奏会

- 選定理由● **心よりどころであった大杉の倒伏という大きな危機が、町の人々の心をつなげるきっかけとなり、シニアも若手も一丸となり、世代を超えて地区の未来を考える動きに転換した点が素晴らしい**
世代を超えた議論を通じ、地区のピンチを、町の未来を考えるチャンスにした道のりが感動的で勇気づけられる。形ある資源も大事だが、人の想い・真摯な取り組み・地域内のコミュニケーションが作りあげた「無形の資源」の大きさに気づかされた。これまで地域の中心だった高齢者が若い世代や移住者の声に耳を傾け、主体的に地域に関わる人口が増えたことは大きな希望といえる。クラウドファンディングなど新たな手法が、次の課題解決に繋がってきている点も評価。

■問合せ先■ 瑞浪市 まちづくり推進部 市民協働課 ☎ 0572-68-9756 (課直通)

国土計画協会会長賞

(国土づくり・地域づくりの観点から注目された取組)

しとり にし

みさきちょう

倭文西まちづくり協議会 (岡山県美咲町)

--- 「賑やかな過疎」と「人交(人との交わり・交流)増加」を目指した
小規模多機能自治の実践事例 ---

国土形成計画の重点テーマ

「人口減少下の国土利用・管理」
空き家を活用した地域活性化
「地域を支える人材の確保・育成」
地域への誇りと愛着に基づく当事者意識
に根差した多様な主体の参加と連携

- 活動概要● **「出来ることを増やしていこう」「地域のことは地域のみんで」を合言葉に「賑やかな過疎」を目指している**
600余人という小さな地区で、中学生以上 地域住民全員アンケートにより「地域みらい計画書」を策定。それに基づき、「お金で地域づくりはできない」という考えのもと、**地域みんなが取り組める何かを考え出し、地道に積み重ねている事例。**
- ▶「空き家朝活」として、地域内の空き家で、月1回、半日程度片付けやリフォーム
大工経験者を中心に天井・床の張替え、地域の名人・達人が障子張りなど
- ▶空き家は地元小学生の総合学習の場にも。地域の現状の説明の上で、小学生たちに「君だったら空き家をどういう使い方をしたいか」というテーマで発表してもらう等
- ▶月1回、地域住民が集まり、地図を使う等により、意見共有会を開催。「福祉」「観光・交流」「空き家」の3部会で、年齢や役職、男女の垣根を越えて意見交換
- ▶一番の地域資源は「人財」=「地域内の様々な達人・名人・得意人など」を100人以上リストアップし、データベース化。有事の際にはお願いし、課題を解決する
- ▶高齢者を地域全体で見守る「黄旗運動」。旗には子どもたちにイラストやメッセージを描いてもらっており、皆で見守り・支え合いながらの暮らしに取り組んでいる



中学生以上住民アンケートをもとに
地図上で地域の計画づくり



「総合学習」の一環として、
小学生が空き家の掃除後に地域学習

- 選定理由● **いかにコミュニティを維持していくかという命題に、全員参加型のプロセスで取り組んでいる事例**
中学生も含めた皆の意見に耳を傾け、子どもも含んだ皆にそれぞれ役割を担ってもらい、地区が一つの家族のような形で繋がり、助け合う関係が築かれている。高齢世帯の黄旗運動や、空き家活用への小学生の参加など、誰も取り残さないという工夫が見られ、地区の事を「わがごと」として考えられる素地が生まれている。空き家を発掘し利活用につなげていく取組は、過疎地だけでなく、郊外住宅地・地方都市でも参考になる。地味で地道だが、小中学生も含め、地域住民の意見を聞き、参加するしくみを工夫すれば、地域が少しずつ確実に変わっていくことを示した好事例。

■問合せ先■ 美咲町 地域みらい課 ☎ 0868-66-1191 (課直通)

日本政策投資銀行賞

(地域経済・産業振興上注目された取組)

国土形成計画の重点テーマ

「持続可能な産業への構造転換」
地域一体となった
観光産業の高付加価値化

行田市 及び 一般社団法人 行田おもてなし観光局 「行田花手水week 及び 希望の光」 (埼玉県行田市) ---手水鉢を季節の花々で彩る花手水で 歴史的まち並みを高付加価値化 ---



忍城(おしじょう)の花手水



毎月一夜限定のライトアップ「希望の光」

- 活動概要● **SNSの評判に着目。コロナ禍での小さな取組を町の新たな名物に**
行田の花手水は、当初、神社がコロナ禍で手水が使えない参拝者へ、手水鉢に花を飾って少しの癒やしを、との思いから始めたもの。それがSNS等で話題になり、地域全体で来訪者のおもてなしをしようと、忍城(おしじょう)や商店、民家の軒先などで思い思いの「花手水」を毎月2週間飾る「行田花手水week」を開始。
今や約100カ所で開催され、「行田花手水」を目的とした来訪者が増加しつづけており、観光が教育や福祉とも繋がり始め、まちづくりに大きく貢献。
更に他地域との差別化のため、毎月一夜限定で、和傘や竹灯籠等による幻想的な演出を伴って町なかに飾られた花手水をライトアップする「希望の光」も実施。
▶花手水を軒先に飾ることでお店に入店するハードルが下がり、商売にも好影響
▶特別支援学校の生徒たちが作成した飾り等も「希望の光」で活用
▶この取組を始めてから、観光物産館の売上が前年比で5倍に

- 選定理由● **SNS等の評判という小さな気づきを大きな運動に育て上げ、更に磨き上げている点を評価**
小さなチャンスを逃さず、歴史資産などの既存の地域資源も使い、更にお店や市民を巻き込んで、町全体の価値の向上を達成した点で勇気づけられる取り組み。お金をほとんどかけずに、観光客が増え、経済効果も出ていることは商店街、住民の誇りや次の工夫に踏み出す意欲を高めるものと言える。最初の10軒から始め、少しずつ回を追う毎に参加する市民が増えていくプロセスも好ましく、小さいことからの積み重ねを行っている各地域の励みにもなる事例。花手水で競合する他地域との差別化に向け更に一工夫されたことも素晴らしい。

■問合せ先■ 行田市 商工観光課 ☎ 048-556-1111 (内線) 382

地域づくり表彰審査会 特別賞 (審査会で特に注目された取組)

国土形成計画の重点テーマ

「グリーン国土の創造」
森林資源の循環利用の確立
「地域を支える人材の確保・育成」
多様性に富む包摂的な
地域社会の実現

ちく・ふく・しょう おおさきちよう 「竹・福・商」連携による大崎町「竹の資源化」モデル (鹿児島県大崎町)

--- 地域の障がい者や高齢者が 放置竹林の解消と
付加価値化による 地域づくりの新たな担い手に ---

- 活動概要● **厄介者扱いされていた放置竹林を資源として捉え、障がい者や高齢者が放置竹林の整備や竹材加工の担い手となる取組を展開**
障がい者・高齢者・こども等が竹林を手入れし刈った竹を竹炭(土壌改良材)とし、それを撒いた畑でできたサツマイモを干し芋にし、販売する。
これらは、障害者支援施設、地域住民(高齢者サロン)、食品加工事業者(干し芋製造等)、社会福祉協議会、大学、役場の協働であり、**新たな農福連携の形**。
▶障がい者と高齢者が互いに補完しあい「誰かのために役立つ」というやりがいを得ることが活動継続につながっており、作業の分担等の工夫も生まれている
▶半年で延べ300名強が参加、3千㎡の放置竹林を解消、更に付加価値を生んでいる
▶放置竹林から筍が収穫できるようになり、幼竹を塩蔵メンマにする取組も開始
▶放置竹林が枯れ竹状態であれば、障害者支援施設、地域住民(高齢者サロン)を核とした本モデルは汎用性が高く、他地域へ展開の可能性がある
▶竹炭の出荷の結果、竹林整備における障がい者の工賃を倍増することができた
▶干し芋は、町外のマルシェでも販売された



放置竹林の伐採竹から竹炭を作る
障害者支援施設の皆さん



放置竹林の竹から作った土壌改良材を
サツマイモ畑に。できたイモは干し芋に

- 選定理由● **放置竹林の解消と共に、一人一人が胸を張って一生懸命働くことのできる地域づくりに寄与**
放置竹林が多様な主体により整備され、枯れ竹から製造された竹炭を畑に撒き、そこで出来たイモが干し芋に変わる。その活動の中で、障がい者や高齢者は、やりがいや生きがいととも、従前以上の収入を得ることのできる循環型モデル。全国各地で人口・産業・財源が縮小し、福祉の担い手も減少している中で、多分野の連携による地域づくりはより重要になる。福祉とビジネスを組み合わせた地域課題の解決は、これからが本番とみられ、その先鞭をつける事例として評価できる。資源の循環も含め「誰一人取り残さない」というSDGsの理念とも合致しており、これからの地域の在り方に重要な示唆を与える事例として特に紹介したい。

■問合せ先■ 大崎町 企画政策課 ☎ 099-476-1111 (内線) 221

令和5年度「地域づくり表彰」 審査後の総評

創意と工夫を活かした個性ある地域づくり活動を奨励するこの「地域づくり表彰」は、昭和 59(1984)年から始まり、今回が第40回目に当たります。今年度も全国各地から昨年度を上回る 計41件の多様な事例が推薦されて参りました。厳正な審査の結果、総合的に最も優れた取組である「国土交通大臣賞」3事例を始め、
 地域活性化の観点で優れた取組である「全国地域づくり推進協議会会長賞」2事例
 国土づくり・地域づくりの観点から優れた取組である「国土計画協会会長賞」1事例
 地域経済や産業振興の観点から優れた取組である「日本政策投資銀行賞」1事例
 注目すべきテーマ等がある優良な取組である「地域づくり表彰審査会特別賞」1事例
 の、8つの優良事例を表彰することといたしました。

今年度の表彰事例をみると、いずれの取組も、「自分事としての課題」の認識から出発しており、また、「課題」は似通ったように見えても、「課題解決のアイデア」は多種多様で地域の特色を生かした独自のものがありました。

① 独自性としては、課題解決の足がかりとして、地域固有の魅力を価値創出の元にしつつ、その活動の着手前は価値を生んでいなかったもの(古民家、放置竹林、時代に取り残された倉庫街、保育所の空き枠など)を有効活用し、大きな投資をすることなく課題を解決し、更にその活動の多くは無形の「新しい価値」を産み出していたことが挙げられます。「新しい価値」とは、保育園留学したご家族と地元の方々との交流が生み出す心の温かみ、花手水が生み出した回遊する街歩きのワクワク感、神明大杉のナラチブな(物語性ある)製品群などです。その「新しい価値」の発信は、広く外の社会に対して開かれたものでありつつも、最終的には、地域の魅力の再認識、地域への誇り・やりがいの醸成を通じ、活動の中心となっている地域の方々へ還流しており、それが活動の持続可能性をもたらすという好循環を創り出していました。

② 地域づくり活動の広がりや、より大きく、より魅力的にしていたのは、複数の異なる要素の「マリアージュ(調和した融合)」であるように感じました。例えば、「若者と高齢世代」の知識やアイデアの世代を超えた交差、「農業と福祉と商業」の連携、「歴史遺産と花(自然)と商業」の組み合わせなどです。この点は、新しい「国土形成計画」で示された「相互連携による相乗効果の発揮」とも相応するようになります。

③ 特に、行政をはじめ、地域にある既存のしくみの多くは「縦割り」のものですが、今年度の優良事例からは、それらも上手く組み合わせるなどの「しくみのデザイン力」が、かなり上がってきている印象を感じられました。

④ 今年度の事例では活動のキーマンが、外から入ってきた方であるケースは比較的少なく、「地域の中の方」が主導するケースが多かったこと、および、優良事例の多くが「若手主導の提案」である点も印象的でした。加えて、それぞれの活動の中心になっている若いキーマンたちが、従来からある商店、地場のサービスの利用者、空き店舗の大家さんなど、もともとその地域におられる方々の目線を尊重している点が印象的でした。そのことが、信頼と共感、新たな「化学反応」を生み出し、活動を地域に溶け込ませる上で重要な役割を果たし、更には、活動の持続可能性や展開を足元で力強く支える要素ともなっていたと思います。

⑤ 手法論で言えば、DX時代を代表する「フェイスブック」「インスタグラム」「クラウドファンディング」などのSNS(ソーシャルネットワーク)的手法が、空間を超えた「共感」を広げる手段として有効に機能していることに気づかされました。そうした手段は、翻って、地域にいる方々に対しても、活動に元気を与え、活動の選択肢に多様性をもたらしていたと思います。また、多くの活動が「社会的起業」と呼べるものになってきており、その形をとることによって、より一層の活動の広がりや持続可能性を生み出しておりました。

このように、今年度の事例からは、担い手や手法は時代時代が変われど、地域づくりの成否を左右するものは、「住民との信頼感の醸成」と「内外の共感の広がり」であることを改めて強く感じた次第です。

なお、「審査会特別賞」については、地域づくりにおいて、「農福連携」を始めとした福祉との連携が、今後、拡大・進化をしていくことに注目し、期待していきたいという趣旨もあり選定したものです。

受賞された皆様には、表彰を機に、ますますの活発な取組を期待申し上げるとともに、全国各地の皆様が、各事例をご参照され、更に機会がありましたら、取組現場をご訪問いただき、当事者の皆様と交流される等により、个性的で魅力あふれる地域づくりの輪が、更に一層広がっていくことを期待しております。

令和5年度「地域づくり表彰」審査会 座長 坂田 一郎
 (東京大学 地域未来社会連携機構 機構長 兼 工学系研究科教授)

(※)「マリアージュ」= 調和ある組み合わせ。ももとは料理用語で、適切な料理とワイン、食材とソースのように、異なる存在を相性良く出合わせることで産まれる組み合わせの妙や調和の価値のことも指す。

令和5年度「地域づくり表彰」審査会 委員名簿

(○は座長、有識者委員は五十音順、敬称略)

(有識者委員)

- | | | | | | |
|---|----|----|----|----|---|
| | い | とう | さと | こ | |
| | 伊 | 藤 | 聡 | 子 | フリーキャスター |
| ○ | さ | た | いち | ろう | |
| | 坂 | 田 | 一 | 郎 | 東京大学 地域未来社会連携機構 機構長 兼 工学系研究科 教授 |
| | さん | べ | ひろ | み | |
| | 三 | 瓶 | 裕 | 美 | 「つちのと舎」代表、総務省地域力創造アドバイザー、 地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員 |
| | せ | た | ふみ | ひこ | |
| | 瀬 | 田 | 史 | 彦 | 東京大学大学院 工学系研究科 准教授 |
| | ふ | い | さ | や | |
| | 藤 | 井 | さ | か | 筑波大学 システム情報系社会工学域 准教授 |
| | ほ | ぐ | まさ | ひろ | |
| | 堀 | 口 | 正 | 裕 | 株式会社 第一プログレス 代表取締役社長 兼 TURNS プロデューサー |

(共催・後援者委員)

- | | | | | | |
|--|---|---|----|----|------------------------|
| | み | た | た | ろう | |
| | 峰 | 達 | 達 | 郎 | 全国地域づくり推進協議会 会長 (唐津市長) |
| | お | た | ひ | や | |
| | 太 | 田 | 秀 | 也 | 一般財団法人 国土計画協会 専務理事 |
| | た | ざ | とし | やす | |
| | 高 | 澤 | 利 | 康 | 株式会社 日本政策投資銀行 常務執行役員 |
| | つ | い | とも | の | |
| | 筒 | 井 | 智 | 紀 | 国土交通省 大臣官房審議官 |

以上

国土形成計画(全国計画) 概要

2023年(令和5年)7月閣議決定

新たな国土の将来ビジョン

計画期間: 2050年さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間

時代の重大な岐路に立つ国土 《我が国が直面するリスクと構造的な変化》

地域の持続性、安全・安心を脅かすリスクの高まり

- ・未曾有の人口減少、少子高齢化がもたらす地方の危機
- ・巨大災害リスクの切迫(水災害の激甚化・頻発化、巨大地震・津波、火山噴火、雪害等)
- ・気候危機の深刻化(2050年カーボンニュートラル)、生物多様性の損失

コロナ禍を経た暮らし方・働き方の変化

- ・テレワークの進展による転職なき移住等の場所に縛られない暮らし方・働き方
- ・新たな地方・田園回帰の動き、地方での暮らしの魅力

激動する世界の中での日本の立ち位置の変化

- ・DX、GXなど激化する国際競争の中での競争力の低下
- ・エネルギー・食料の海外依存リスクの高まり
- ・東アジア情勢など安全保障上の課題の深刻化

豊かな自然や文化を有する多彩な地域からなる国土を次世代に引き継ぐための**未来に希望を持てる国土の将来ビジョン**が必要

目指す国土の姿 「新時代に地域力をつなぐ国土 ~列島を支える新たな地域マネジメントの構築~」

デジタルとリアル融合による 活力ある国土づくり

~地域への誇りと愛着に根差した地域価値の向上~

巨大災害、気候危機、緊迫化する国際情勢に対応する 安全・安心な国土づくり

~災害等に屈しないしなやかで強い国土~

世界に誇る美しい自然と多彩な文化を育む 個性豊かな国土づくり

~森の国、海の国、文化の国~

国土づくりの戦略的視点 ①民の力を最大限発揮する官民連携 ②デジタルの徹底活用 ③生活者・利用者の利便の最適化 ④縦割りの打破(分野の垣根を越える横断の発想)

※南北に細長い日本列島における国土全体での連結強化
※広域レベルからコミュニティレベルまで重層的な圏域形成

国土構造の基本構想 「シームレスな拠点連結型国土」

デジタルの徹底活用による場所や時間の制約を克服した国土構造への転換

〈広域的な機能の分散と連結強化〉
階層間のネットワーク強化
〈持続可能な生活圏の再構築〉

- ◆ 中核中核都市等を核とした広域圏の自立的発展、日本海側・太平洋側二面活用等の広域圏内・広域圏間の連結強化を図る「全国的な回廊ネットワーク」の形成
- ◆ リニア中央新幹線、新東名・新名神等により三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成による地方活性化、国際競争力強化
- ◆ 生活に身近な地域コミュニティの再生(小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生)
- ◆ 地方の中心都市を核とした市町村界にとらわれない新たな発想からの地域生活圏の形成

- 東京一極集中の是正(地方と東京のwin-winの関係構築)
- 国土の多様性(ダイバーシティ)、包摂性(インクルージョン)、持続性(サステナビリティ)、強靱性(レジリエンス)の向上

デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成

- 「地方の豊かさ」と「都市の利便性」の融合
- 生活圏人口10万人程度以上を一つの目安として想定した地域づくり(地域の生活・経済の実態に即した市町村界にとらわれない地域間の連携・補完)
- 「共」の視点からの地域経営(サービス・活動を「兼ねる、束ねる、繋げる」発想への転換)
 - ✓ 主体の連携、事業の連携、地域の連携
- デジタルの徹底活用によるリアルな地域空間の質的向上
 - ✓ デジタルインフラ・データ連携基盤・デジタル社会実装基盤の整備、自動運転、ドローン物流、遠隔医療・教育等のデジタル技術サービスの実装の加速化
 - ✓ 地域交通の再構築、多世代交流まちづくり、デジタル活中山間地域、転職なき移住・二地域居住など、デジタル活用を含めたリアル空間での利便性向上
- 民の力の最大限活用、官民パートナーシップによる地域経営主体の創出・拡大

相互連携による相乗効果の発揮

持続可能な産業への構造転換

- GX、DX、経済安保等を踏まえた成長産業の全国的な分散立地等
- 既存コンビナート等の水素・アンモニア等への転換を通じた基幹産業拠点の強化・再生
- スタートアップの促進、働きがいのある雇用の拡大等を通じた地域産業の稼ぐ力の向上 等

グリーン国土の創造

- 広域的な生態系ネットワークの形成、自然資本の保全・拡大、持続可能な活用(30by30の実現、グリーンインフラの推進等を通じたネットワーク化)
- カーボンニュートラルの実現を図る地域づくり(地域共生型再エネ導入、ハイブリッドダム等) 等

人口減少下の国土利用・管理

- 地域管理構想等による国土の最適利用・管理、流域治水、災害リスクを踏まえた住まい方
- 所有者不明土地・空き家の利活用の円滑化等、重要土地等調査法に基づく調査等
- 地理空間情報等の徹底活用による国土の状況の見える化等を通じた国土利用・管理DX 等

地域の安全・安心、暮らしや経済を支える

国土基盤の高質化

- 防災・減災、国土強靱化、生活の質の向上、経済活動の下支え
〔機能・役割に応じた国土基盤の充実・強化〕
- 戦略的マネジメントの徹底によるストック効果の最大化

- ✓ DX、GX、リダンダンシー確保、安全保障、自然資本との統合等からの機能高度化
- ✓ 賢く使う観点からの縦割り排除による複合化・多機能化・効果最大化
- ✓ 地域インフラ群再生戦略マネジメント等の戦略的メンテナンスによる持続的な機能発揮

地域を支える人材の確保・育成

- 包摂社会に向けた多様な主体の参加と連携
- こどもまんなかまちづくり等のこども・子育て支援、女性活躍
- 関係人口の拡大・深化

分野別施策の基本的方向

- 地域の整備(コンパクト+ネットワーク、農山漁村、条件の厳しい地域への対応等)
- 産業(国際競争力の強化、エネルギー・食料の安定供給等)

- 文化・スポーツ及び観光(文化が育む豊かで活力ある地域社会、観光振興による地域活性化等)
- 交通体系、情報通信体系及びエネルギーインフラ

- 防災・減災、国土強靱化
- 国土資源及び海域の利用と保全(農地、森林、健全な水循環、海洋・海域等)
- 環境保全及び景観形成

計画の効果的推進 広域地方計画の策定・推進

- 地理空間情報等を活用したマネジメントサイクルと評価の実施
- 広域地方計画協議会を通じた広域地方計画の策定・推進

《国土の刷新に向けた重点テーマ》

新しい資本主義、デジタル田園都市国家構想の実現